

国際日本研究学位プログラム(博士後期課程)

専門科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OBBE000	リサーチ・プログラム開発5	2	2.0	1				自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」は複数教員で評価する。本演習は早期修了予定者が博士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2, 3, 4」とは別のものでなければならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。偶数年開講。  2024年度より2年おきに開講。 02DMC01と同一。 2025年度開講せず。
OBBE001	リサーチ・プログラム開発6	2	2.0	1				自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」は複数教員で評価する。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2, 3, 4, 5」とは別のものでなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。偶数年開講。  2024年度より2年おきに開講。 02DMC02と同一。 2025年度開講せず。
OBBE002	リサーチ・プログラム開発7	2	2.0	2	春ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」は複数教員で評価する。本演習は早期修了予定者が博士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2, 3, 4, 5, 6」とは別のものでなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。奇数年開講。 02DMC03と同一。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)

OBBE003	リサーチ・プログラム 開発8	2	2.0	2	秋ABC	応談	国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」は複数教員で評価する。本演習は早期修了予定者が博士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がいる。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がいる。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3,4,5,6,7」とは別のものでなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。奇数年開講。  O2DMC04と同一。要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
OBBE010	リサーチ・プログラム 開発基礎3	2	1.0	1 - 3	春ABC	応談	国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	構成教員や主指導教員(副指導を含む)の協議をふまえ、国内外学会、シンポジウム、学術会議、公開講座などの研究教育に関連する活動等を企画運営または参画することを通じて、資料調査・サーベイ等による研究能力にとどまらず、運営事務や企画調整等のマネジメントおよびコミュニケーションといった実践能力の涵養を併せて図ることを目的とする。履修者は、その活動および成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録し、活動終了後に学位プログラムリーダーへ提出する。提出された「ノート」は教育会議に諮って審査し、合格が認められた者に1.0単位を付与する。本科目を適用できる活動は、原則として構成教員や主指導教員(副指導を含む)が学位プログラム教育会議に付議して認められた企画・活動に限るものとし、履修者はその活動の準備から終了まで積極的に参画すること。また、履修者の「ノート」は、通常10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当し、自らの研究活動に寄与する質量であることが望ましい。 なお、早期修了希望・早期修了希望以外のいずれの学生であっても、学位プログラム教育会議の審議の結果、認められれば履修することができる。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
OBBE011	リサーチ・プログラム 開発基礎4	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談	国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	構成教員や主指導教員(副指導を含む)の協議をふまえ、国内外学会、シンポジウム、学術会議、公開講座などの研究教育に関連する活動等を企画運営または参画することを通じて、資料調査・サーベイ等による研究能力にとどまらず、運営事務や企画調整等のマネジメントおよびコミュニケーションといった実践能力の涵養を併せて図ることを目的とする。履修者は、その活動および成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録し、活動終了後に学位プログラムリーダーへ提出する。提出された「ノート」は教育会議に諮って審査し、合格が認められた者に1.0単位を付与する。本科目を適用できる活動は、原則として構成教員や主指導教員(副指導を含む)が学位プログラム教育会議に付議して認められた企画・活動に限るものとし、履修者はその活動の準備から終了まで積極的に参画すること。また、履修者の「ノート」は、通常10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当し、自らの研究活動に寄与する質量であることが望ましい。 なお、早期修了希望・早期修了希望以外のいずれの学生であっても、学位プログラム教育会議の審議の結果、認められれば履修することができる。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)

OBBE014	リサーチ・プログラム 特別開発3	2	1.0	1 - 3	春ABC	応談	国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	<p>本科目は英語等外国語による優秀な学術業績の成果産出を促す目的から開講するものであり、学生は指導教員および学位プログラムリーダーに履修の意思を示し、学位プログラム教育会議において履修の適切性が審議・承認された場合において、その履修が認められる。</p> <p>学生は自らの研究テーマに関して、学位プログラムリーダー、指導教員、学位プログラム代表者等の指示する教材、文献、各種資料などを広く学習しつつ、海外の関連学会・シンポジウム・学術会議・公開講座等に参加のうえ発表をおこない、その発表詳細および学習成果について総括レポートを作成する。レポートは通常10回分の講義および予復習、外国語運用能力の向上に資する程度の質と量を必要とする。</p> <p>学生は総括レポートを必ず指導教員および学位プログラムリーダーに報告し、そのレポートに記載された研究の進捗状況および学習内容は学位プログラムにおいて審査される。審査の結果「可」の判断が与えられた場合、1.0単位が付与される。</p>	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。 対面(オンライン併用型)
OBBE015	リサーチ・プログラム 特別開発4	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談	国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	<p>本科目は英語等外国語による優秀な学術業績の成果産出を促す目的から開講するものであり、学生は指導教員および学位プログラムリーダーに履修の意思を示し、学位プログラム教育会議において履修の適切性が審議・承認された場合において、その履修が認められる。</p> <p>学生は自らの研究テーマに関して、学位プログラムリーダー、指導教員、学位プログラム代表者等の指示する教材、文献、各種資料などを広く学習しつつ、海外の関連学会・シンポジウム・学術会議・公開講座等に参加のうえ発表をおこない、その発表詳細および学習成果について総括レポートを作成する。レポートは通常10回分の講義および予復習、外国語運用能力の向上に資する程度の質と量を必要とする。</p> <p>学生は総括レポートを必ず指導教員および学位プログラムリーダーに報告し、そのレポートに記載された研究の進捗状況および学習内容は学位プログラムにおいて審査される。審査の結果「可」の判断が与えられた場合、1.0単位が付与される。</p>	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。 対面(オンライン併用型)
OBBE314	国際日本文科学1A	1	1.0	1 - 3				<p>国際日本文科学領域の様々な学術分野との関連において、学問領域の枠にとらわれない広い視点で探究し、学問を多角的に究明するための総合的な知の体系の構築を目指し、考究する力と感性を養成します。</p>	開設曜時は教員毎に異なる。 2024年度より3年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
OBBE315	国際日本文科学1B	1	1.0	1 - 3				<p>国際日本文科学領域の様々な学術分野と様々な事象や概念を、学問領域の枠にとらわれない広い視点で探究し、学問を多角的に究明するための総合的な知の体系の構築を目指し、論理的かつ多角的に研究に関する授業を行います。</p>	2024年度より3年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
OBBE316	国際日本文科学2A	2	1.0	1 - 3	春AB	応談	白戸 健一郎、江口 真規、葛西 太一、石塚 修、平石 典子、海後 宗男、巖 錫仁、塩谷 哲史、イスマイロフ ムロド、渡部 宏樹	<p>人文科学の諸分野の視点から、現代日本や国際社会の特質と諸課題を解明するための演習を行う。</p> <p>受講生各自が自分の研究課題をもち、授業における議論を通して、高度な研究力を身に付けることを目的とする。</p>	2025年度より3年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
OBBE317	国際日本文科学2B	2	1.0	1 - 3	秋AB	応談	白戸 健一郎、江口 真規、葛西 太一、石塚 修、平石 典子、海後 宗男、巖 錫仁、塩谷 哲史、イスマイロフ ムロド、渡部 宏樹	<p>人文科学の諸分野の視点から、現代日本や国際社会の特質と諸課題を解明するための演習を行う。</p> <p>受講生各自が自分の研究課題をもち、授業における議論を通して、独創性の高い学術的成果を生み出すことを目的とする。</p>	2025年度より3年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
OBBE514	国際日本社会科学1A	2	1.0	1 - 3				<p>社会科学の諸分野の視点から、現代日本や国際社会の特質と諸課題を解明するための演習を行う。</p> <p>受講生各自が自分の研究課題をもち、授業における議論を通して、高度な研究力を身に付けることを目的とする。</p>	授業形態は演習(対面)。開設曜時は教員毎に異なる。 2024年度より3年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
OBBE515	国際日本社会科学1B	2	1.0	1 - 3				<p>社会科学の諸分野の視点から、現代日本や国際社会の特質と諸課題を解明するための演習を行う。</p> <p>受講生各自が自分の研究課題をもち、授業における議論を通して、独創性の高い学術的成果を生み出すことを目的とする。</p>	2024年度より3年おきに開講。 対面(オンライン併用型)

OBBE516	国際日本社会科学2A	2	1.0	1 - 3	春AB	応談	山本 英弘, 佐藤 麻理絵, 高橋 秀直, 平沢 照雄, 柴田 政子, 川崎 レスリー タック, 崔 宰榮, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ダダバエフ ティムール, 宮坂 渉, オルトラーニ アンドレア, 河合 晃一	国際日本社会科学領域の様々な学術分野との関連において、学問領域の枠にとらわれない広い視点で探究し、学問を多角的に究明するための総合的な知の体系の構築を目指し、考究する力と感性を養成します。	2025年度より3年おきに開講。 対面: 対面(オンライン併用型)、オンライン(対面併用型)
OBBE517	国際日本社会科学2B	2	1.0	1 - 3	秋AB	応談	山本 英弘, 佐藤 麻理絵, 高橋 秀直, 平沢 照雄, 柴田 政子, 川崎 レスリー タック, 崔 宰榮, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ダダバエフ ティムール, 宮坂 渉, オルトラーニ アンドレア, 河合 晃一	国際日本社会科学領域の様々な学術分野と様々な事象や概念を、学問領域の枠にとらわれない広い視点で探究し、学問を多角的に究明するための総合的な知の体系の構築を目指し、論理的かつ多角的に、研究に関する授業を行います。	2025年度より3年おきに開講。 対面: 対面(オンライン併用型)、オンライン(対面併用型)
OBBE804	国際日本語教育学1A	2	1.0	1 - 3	春AB	応談	小野 正樹, 高木 智世, 井出 里咲子, 関崎 博紀, ブッシュネル ケード コンラン, ヴァンパーレン ルート, 伊藤 秀明	日本語・日本語教育学をめぐる様々な学術分野との関連において、学問領域の枠にとらわれない高度な研究力・先端的な専門知識・深い倫理観を身につけることを目的とする。	2025年度より3年おきに開講。 対面: 対面(オンライン併用型)、オンライン(対面併用型)
OBBE805	国際日本語教育学1B	2	1.0	1 - 3	秋AB	応談	小野 正樹, 高木 智世, 井出 里咲子, 関崎 博紀, ブッシュネル ケード コンラン, ヴァンパーレン ルート, 伊藤 秀明	日本語・日本語教育学をめぐる様々な学術分野との関連において、日本語教育学を中心とした幅広い基礎的素養および視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を身につけることを目的とする。	2025年度より3年おきに開講。 対面: 対面(オンライン併用型)、オンライン(対面併用型)
OBBE990	プロジェクト演習3A	2	1.0	1	秋ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の構成および執筆計画を発表する。主に4月入学者が受講する。	対面(オンライン併用型)
OBBE991	プロジェクト演習3B	2	1.0	1	春ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の構成および執筆計画を発表する。主に10月入学者が受講する。	対面(オンライン併用型)
OBBE992	プロジェクト演習4A	2	1.0	2	秋ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の中核となる諸章を発表する。主に4月入学者が受講する。	対面(オンライン併用型)
OBBE993	プロジェクト演習4B	2	1.0	2	春ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の中核となる諸章を発表する。主に10月入学者が受講する。	対面(オンライン併用型)